

東日本大震災 対策本部情報	55号	2011/04/7 16:30現在
------------------	-----	----------------------

各地本委員長殿

避難生活している岩橋さん（原ノ町支部）が

本部を訪問、避難生活を語る！

東日本大震災以降の福島第一原子力発電所の事故によって、横浜で避難生活している岩橋さん（写真中央）が本部を訪れ、当時の状況や現況について報告していただきました。



岩橋さんは、「自宅で震災に遭遇し、5日間自宅で生活をしていましたが、近所が避難しはじめ誰もいなくなりました。周りの人から避難した方が良いと言われ福島支部に避難、その後あづま運動公園アリーナに避難しました。アリーナでは2300人ほどが生活していました。豚汁など温かい食べ物の差し入れがうれしかったです。原ノ町の組合員・家族の安否と避難先を把握しました。避難生活が長期化することを覚悟して、今は横浜の親戚の家で過ごしている」と避難生活を語って

くれました。

また、震災後「福島支部が相馬地区やいわき地区に支援物資を届けてくれた。また、避難先へも新潟地本や横浜地本、大宮地本の仲間が支援物資をもって激励に来てくれた。みんな『やっぱり頼れるのはJR東労組』と感謝の声が出されている」とお礼の言葉をいただきました。

岩橋さんは「子どもの学校の関係もあり自宅に帰りたいが、避難地域が30キロ圏まで拡大されると自宅へ帰ることができなくなる」と原発事故に対して不安な状況を語っています。

原ノ町、いわき支部の組合員は、今なお県外などに避難している組合員もいますが、学校も始まり自宅に戻っている組合員も多くいます。水戸地本は、いわき支部を拠点に飲料水や物資を配布しています。また、原ノ町支部でも組合員への支援体制の確立を目指して奮闘しています。

JR東労組本部